



“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和8年1月③
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmobbb.jp



◆お釈迦様のご命日

当山の涅槃図に描かれた白黒2頭の馬。



馬は古代からインドにおいて、獅子、象、牛とならぶ四聖獣の一つとされる神聖な動物でした。涅槃図中に於いて、首をうなだれ悲しそうな姿で表現されています。

曹洞宗発行のリーフレットから、涅槃図について紹介します。

「涅槃図とは、お釈迦様が入滅(お亡くなりになること)された時の様子を描いたものです。……(中略)」

涅槃図は、お釈迦様の入滅という悲しみの中にも、仏教画としての荘厳さを保たなければなりません。さらには、命の終焉を描くと共に、教えの永遠性を表現することが求められます。このような一見すると矛盾する課題を仏教の教えに沿って一枚の

絵の中に凝縮させていったものが涅槃図です。



お釈迦様のお姿は、仏教徒の理想の姿として描かれてきました。涅槃図もまた、理想の死の在り方が示されています。涅槃図を読み解くことは自分自身の死の在り方を考えることであり、死を見つめることは今を生きることを見つめ直すことでもあるのです。」

涅槃会を下記の通り行います。

令和8年2月15日(土) 15時～

当山に伝わる涅槃図は、とても立派なものです。ぜひ実際にみていただきたいと思います。

リーフレットの文にもあるように、涅槃図には様々な説話があり、そのいくつかを紹介し、一緒に生と死について考える機会とします。

崇山会で御供いただいています。寒い時期ですので、どうぞ身一つで足もとに気をつけてお参りください。



御礼

年始にはご本尊様へ多数お参りいただきありがとうございました。
本年の安寧を改めて祈ります。